

## 有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループにおける調査審議の進め方 （案）

### 1. 評価書について

有機フッ素化合物である PFAS については、現在、令和 4 年度食品安全確保総合調査課題「パーフルオロ化合物に係る国際機関等の評価及び科学的知見（体内動態、毒性、ばく露量、疫学調査等）の情報収集並びに整理」（以下、「調査事業」という。）において、国際機関及び各国政府機関等（以下、「国際機関等」という。）の評価に関する情報及び科学的知見の収集・整理がなされており、令和 4 年度末にとりまとめられる予定となっている。

有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループにおいては、当該調査事業で収集・整理された情報等を踏まえて、国際機関等が行った評価も参考に、最新の科学的知見に基づく評価を検討する。

### 2. 進め方について

調査事業で収集された情報及び科学的知見を以下の担当分野ごとに確認し、評価書に記載すべき事項を整理し、評価の方向性を検討する。その際、調査事業の報告には含まれていない科学的知見についても、必要に応じて評価書に記載する検討対象とする。

#### 担当分野（案）

分野	ご担当委員
分析法、ばく露、バイオモニタリング、蓄積性、環境中運命	浅見専門参考人、 長谷川専門参考人
体内動態	松井専門委員、吉成専門委員
実験動物における影響	石塚専門委員、渋谷専門委員、 田中専門委員、姫野専門委員、 小池専門参考人、森田専門参考人
ヒトにおける影響	苅田専門委員、川村専門委員、 澤田専門委員、祖父江専門委員、 中山専門委員 岸専門参考人、黒田専門参考人、 広瀬専門参考人、福島専門参考人